静岡教区報

第652号

発行所

天理教静岡教務支庁
〒425-0013
焼津市岡当目１番地

TEL (054) 626-1333
FAX (054) 628-4615
Email:skyou@live.jp

教区報は、下のQRコードより、スマートフォン等で、ご覧頂けます。

年頭挨拶

静岡教区長　鈴木道輝

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、教会長はじめ教区管内の皆様方のお力添えを賜り、時旬の御用を恙無くつとめ切らせていただくことができました。とりわけ、年祭活動の一環として各支部で実施された「第一回ようぼく一斉活動日」には、大勢の皆様方のご尽力をいただき、教区一手一つにつとめられましたことを心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

先日、知人の結婚披露宴に招かれた時のことです。新郎新婦の入場に始まり、キャンドルサービス、ウエディングケーキ入刀など、コロナ前と変わらぬセレモニーが進行する中、「あれっ？」と思うことがありました。出席者の拍手が少ないのです。

理由は明らか、皆さんスマホの操作で忙しいのです。少し前であれば写真撮影が主でしたから、何枚か撮れば手は空きましたが、今の時代は動画撮影ですので、両手はずっと塞がったままです。拍手がパラパラとしか起こらない結婚式は、何だか寂しく感じました。

「そのうちに、結婚式場は拍手係を用意するのではないか？」、「スピーカーから拍手の音が流れるようになるのではないか？」……。こんなことを想像しましたが、すでにそうしている式場もあるようです。

そもそも拍手とは、賑やかしのためだけにするものではありません。拍手には、その人の心が乗っているのです。結婚式であれば、「おめでとう」という祝福の心が込められています。子供の運動会などは、拍手に「がんばれ」という応援の心が乗っています。また、「ありがとう」という感謝の拍手もあります。する人の心があってこその拍手なのだと改めて感じさせていただきました。

昨今の急速な時代の変化は、新たな風潮と共に、私たちに便利な道具を数多くもたらしました。変化があまりにも速すぎて、私などには使いこなせない道具が多々あります。若い人たちから学ぶこともたくさんあります。しかしそんな時代だからこそ、道具を使う私たちの心がより大事になっているのではないでしょうか。遅れまいと躍起になったり、盲従するばかりでなく、時として激流の中を立ち止まる勇気も必要だと思います。

教祖がお遺しくだされたひながたの道は、陽気ぐらしへつながる心の道であります。昔も今も変わらぬ天の定規です。

只今の年祭活動は、私たちがもうすでに知っている、分かっているはずのひながたの道を、三年千日と仕切って、日々心から離さず実行することにあります。その道中には、ついうっかりと忘れてしまう日もあれば、道から外れてしまう時だってありましょう。そんな毎日にあって、同じ道を慕う兄弟姉妹がたすけ合い励まし合いながら、ご存命の教祖にご安心いただく歩みを進めていくのが、系統を超えた地域活動の本旨であります。

本年もお互いの勇み心を分け合い、皆でたすけ合う教区・支部活動となりますよう、お力添えの程をお願い申し、新年の挨拶とさせていただきます。どうかよろしくお願いいたします。

教区全体会議を開催

～令和五年度補正予算、令和六年度予算を可決～

十一月三十日午後一時より、教務支庁にて全体会議が各部各会の責任者、支部長、地方委員のもと行われた。

議事は芹澤常太郎教区長室長司会のもと進められ、親神様、教祖、祖霊様礼拝に続いて挨拶に立たれた鈴木道輝教区長は、冒頭、先日十月二十九日に教区管内十八会場で開催された「ようぼく一斉活動日」（第一回目）についてねぎらいの言葉を述べられた上で、五回あるこの取り組みについて、回を重ねるごとに内容が充実していくよう、また支部、会場ごとのようぼくの勇みが大きくなっていくように、引き続きお力添えをお願いしたいと述べられた。

続いて子供の名前について、立場上、命名を頼まれるが、名前というのは、私たち人間が一番最初に手にするID。名前は、自分で決めることができない、誰かからつけてもらうのがお互いの名前である。私たち人間は親神様からお創りいただいたお互い。今ある身体をお借りしているお互いである。身体を創られ、貸してくださっている親神様にも、やはり私たちにかけられる思いというものがあり、この道へお引き寄せくださった教祖も同様である。私たちそれぞれにかけられる親心、思いというものが必ずある。教祖百四十年祭に向かうお互い、それを決して忘れてはならない。日々しっかりと心に置いておかなければならない大事な点であることを改めて思うと挨拶された。

次に教区長を議長として予算審議が進められた。まず会計室長の永井磨主事より令和五年度補正予算と令和六年度予算が発表、説明の後、質疑応答と採決が行われ、地方委員の全会一致で可決された。この後、各部、各会より活動報告、また行事への協力のお願いがなされた。

引き続き「ようぼく一斉活動日」第一回目の報告会が開催された。駿豆、富士、東駿、西駿、中遠の五支部より開催を振り返り、スライドを交えて報告が行われた。

最後に、親神様、教祖、祖霊様を礼拝して閉会した。

これに先立ち、午前十一時より、育成会館二階大会議室で、教区長、「ようぼく一斉活動日」教区実行委員会、各支部の支部長や会場責任者などが「反省会」を行い、報告と同時に問題点などが積極的に話し合われ、一同、次回以降の開催に向けて意識を高め合った。

静岡教区学生会の集い開催

十二月二日、教務支庁において、「学生会の集い」を開催、学生三名、OG二名、学生担当委員五名が参加した。今回も昨年に続いて総会に替えての開催となった。

当日午後一時三十分集合。まず開会を行った後、おつとめ・祭儀について勉強したのち、神様へのお供え物に買い出しから始め、調饌を皆で実地に学び、その後献饌した。準備が出来上がったのち、改めて岡野多吉学生担当委員長よりおつとめの意義についてお話。続いて座りづとめ、よろづよ八首のおつとめを参加者全員でつとめた。

おつとめ後、教務支庁を出て懇親会として食事会を行った。

みおしえ学習会

ファシリテーター研修会を開催

布教部（大谷安則部長）では十一月二十八日、教務支庁に於いてみおしえ学習会ファシリテーター研修会を開催し、体験受講を含め三十九名が受講した。

「みおしえ学習会」は、布教部が推奨しているようぼくを対象とした講座の一つで、ファシリテーターがプログラムを進行する形をとるため、少数のスタッフで開催が可能。また、ワークシートを用いて、簡単な問題に記入をしながら講座を進め、大切なポイントは、映像を使って解説がなされるため、大変分かり易い内容となっている。そして、隣の人と意見を交換（サイドトーク）することで、受講者同士が新たな気づきや理解を深めることができるプログラムである。

三年前にこの研修会を企画したところ、諸般の事情から開催できずにいたが、今回、本部布教部研究室員の向正則先生、大石道忠先生をお招きして開催の運びとなった。研究室員の先生方には、前日より会場準備や、資料作成、機材設営など様々な事前準備をして頂き、研修会を迎えた。

当日は、九時三十分より受付が始まり、九時五十分に神殿で開講式が行われた。開講挨拶で大谷部長は、「この研修会を有意義なものにして、各支部での活動につなげてもらえるようにしていただきたい」と述べ、鈴木悟次長よりスケジュールなどの説明を受けた。

このあと受講者は育成会館二階に移動し、午前の時間を使い、講師の先生をファシリテーターとして「十全の守護」をテーマに受講してもらった。この頃になるとファシリテーターとはどんなものなのか分かり始める受講者もおり、自分に出来るのか不安な様子だった。講師の丁寧な説明や、ユーモア溢れる進行に笑い声の絶えない時間となった。

午前の体験受講を終え、昼食の後、午後の時間を使って「八つのほこり」をテーマに、実際にファシリテーターを経験してもらう実技トライアルを行った。受講者が順番に進行役を務め、講師からアドバイスを受けながら進めていった。最初は戸惑いながら進行していたが、講師の先生のサポートによって円滑にファシリテーターを務めることができていった。

研修会後、受講者の声を聞いてみると、三十代の男性は、「支部から研修会参加の声をかけてもらった時は、ファシリテーターとは何の事か全く分からなかったが、先生の上手な説明で自分にもできるような気がしてきた」また四十代女性は「みおしえ学習会にいろいろな立場の方が参加すると、様々な意見が聞けると思うので、支部で開催してもらいたい」など前向きな感想を聞くことができた。

今後、布教部では、年祭活動や支部活動をより活発に進める為に「みおしえ学習会」を一つのツールとして活用して頂きたいとしている。

地域活動の輪を広げることで、ようぼく一斉活動日への参加者も増え、一人でも多くのようぼくに年祭活動に携わってもらうことが布教部の役割。

全教一斉にをいがけデーやひのきしんデー、地域の教友のご丹精の上にお力添えの程よろしくお願い致します。

災害救援ひのきしん隊 教区訓練 小笠山運動公園で実施

静岡教区災害救援ひのきしん隊（山口志朗隊長）は、去る十一月二十九日、掛川市と袋井市にまたがる小笠山運動公園（エコパ）にて、教区訓練を行い、六十四名の隊員が参加した。

昨年は県内に台風被害が甚大だったために教区訓練を中止し、災害出動に充てたため一年ぶりの訓練となった。今回はおぢばより本部主事の田邊幹善先生をお迎えし、昨年の災害経験を踏まえ、組織編成し無線機を導入して連絡系統の整備、現場の動きに合わせた物品の搬入、またヘルメット着用、服装や正しい装備品の使用に気を使うなど徹底した安全確認を踏まえた訓練となった。

当日八時十五分に集合、八時三十分よりエコパ第六駐車場にて結隊式。点呼に続いて山口隊長、田邊本部主事より挨拶の後、作業内容を確認し、本部テント設営。そして東部・中部・西部の各ブロックに分かれて訓練を行った。

東部ブロック隊は主にチェーンソーや刈払い機などを使い、テイダ松や雑木の伐採と公園北部の遊歩道脇の除草作業。中部隊は第六駐車場から公園北中部にある「みはらしの丘」までに至る遊歩道の階段の補修、西部隊は「みはらしの丘」近くの遊歩道補修と東屋の補修作業を行った。

また生活班は現地での昼食の炊き出しを行い、昼食時には芋煮を振舞うなど隊員一同、舌鼓を打った。

午前、午後とも勇んだひのきしんが行われ、十五時三十分に解隊式。作業報告に続いて、エコパの公園管理職員より感謝の言葉を頂き、事故・怪我もなく無事に解散した。

今回の出動は若い隊員の参加が多く、役割もはっきりしたことでスムーズな運営が出来、有意義なものとなった。これからも訓練を重ね、有事で事前の作業内容の把握が早急に出来るように体制づくりをしたいとしている。